

がん遺伝子検査「CanTect」について

1. 検査の目的

当がん遺伝子検査(以下、当検査)は、多数のがん関連遺伝子(正常細胞の“がん化”に関与する数十種類の遺伝子)を一括して検査・解析します。そのことにより、従来の画像診断や血液検査では発見や評価が不可能であった超早期のがん発症リスク、がん再発リスクを判定評価することを目的とします。また、がん治療中の被検者においては、遺伝子解析という従来の検査とは異なる指標により、がん治療の効果を確認することを目的とします。

当検査による遺伝子解析の結果は、誰にも起こりうる遺伝子の後天的な変化による“現在の”身体の状態を評価するものであり、親から子へ伝わる遺伝的な形質(体質)を検査するものではありません。

当検査は、従来の画像診断や血液検査に代わるものではなく、それらの検査を補完する目的で実施されます。

2. 当検査の限界

当検査は、従来の画像検診等の検査では発見できない段階での、身体のがんリスクを血液を用いて検査し評価しますが、PET-CTやMRI、X線など従来の画像診断に代わるものではなく、それらを補完する目的で実施されます。がんの発生部位や種類によっては、当検査の結果に反映されにくい場合もあります。当検査にて現在のがんリスクが低いと判定されても、将来にわたり全く発症しないことを保証するものではありません。また当検査にてリスクが高いと判定された場合、ご自身で独自に判断なさらずに必ず担当医師にご相談ください。現在の身体の状態やリスクが高いと判定される原因を確かめるために別途検査をお勧めすることがあります。

3. 個人情報の取り扱い

当検査に於ける個人情報については、医療機関および検査機関と連携して保護にあたります。医療機関による連結匿名化処理後に、個人の特定が不可能な状態にて検査実施機関へ伝達されます。個人の特定の可不可にかかわらず、当検査に於ける個人情報については被検者による事前の同意なく第三者に伝達いたしません。

4. 関連書類および検査データの取り扱い

当検査により生じた関連書類は、法令に定められる一定期間(2年間)および検査会社内規に定める保管(5年間)の後、復元不可能な処理の後、廃棄されます。

当検査の検査データは、個人を一切特定できないように連結不可能な匿名化を施した後、法令に定められる一定期間および検査会社内規に定める保管期間、保管される場合があります。当検査結果は、個人が特定されない場合において、しかるべき学会あるいは論文等により発表される場合があります。

5. 検査結果について

当検査の結果は、多数の健常者およびがん患者の検査データの解析に基づく統計的な結果です。当検査でリスクが高いと評価されてもがんの発症が確定するものではなく、リスクが低いと評価されても将来にわたりがんが発症しないことを保証するものではありません。また、がんの種類によっては当検査のがんリスク評価では判定が困難な場合もあります。

当検査添付の資料に掲載されているがん予防法は、国内外の医師あるいは医療関係者、医療研究機関からの統計的情報に基づく一般的な方法を掲載したものであり、がんや生活習慣病の予防あるいは治療に対するその効果を保証するものではありません。当検査の結果およびその対応については、独自で判断なさらずに必ず医療機関の担当医師と相談の上、指示に従ってください。

6. 問い合わせ先、相談窓口

当検査に関する医学的なお問い合わせに関しては、当検査を受診した医療機関および担当医師にご相談ください。当検査の技術的なお問い合わせに関しては、検査実施機関にお問い合わせください。



結果報告書

病院名	GSクリニック
検査ID	GS003
検査コース	総合検査コース
	様

作成	承認

検査実施機関
 株式会社 ジーンサイエンス
 〒102-0083 東京都千代田区麹町2-6-7 麹町R・Kビル2F
 TEL:03-6268-9321
 FAX:03-6268-9320



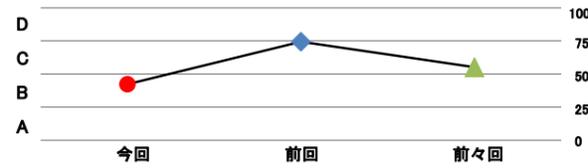
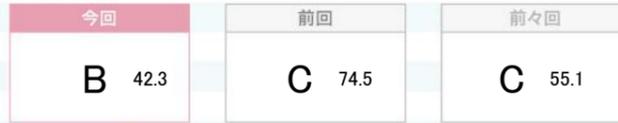
結果報告書

病院名 **GSクリニック**

検査コース **総合検査コース**

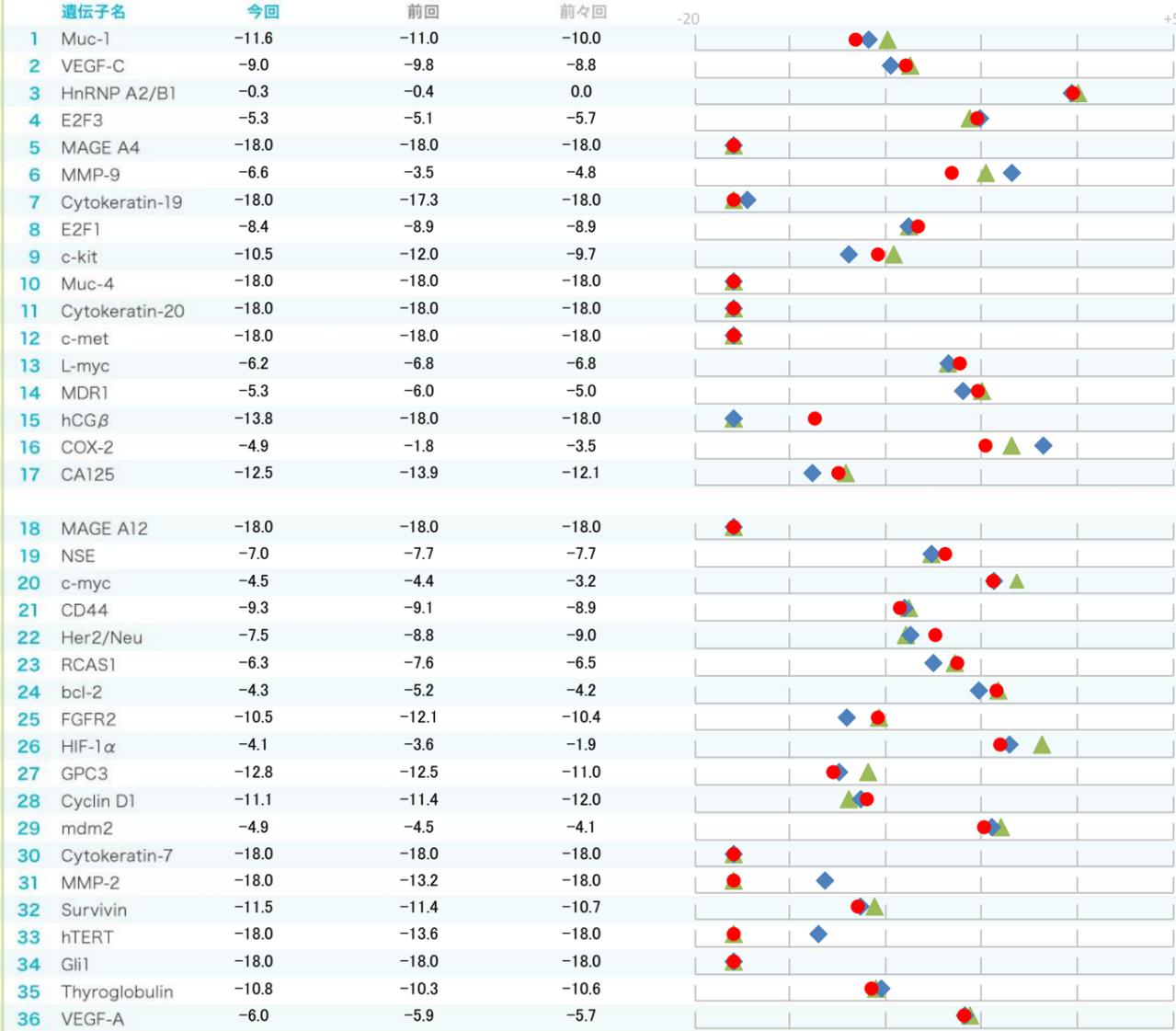
検査ID **GS003** 性別 **男** 検査受付日 **2013年9月19日** 前回受付日 **2012年9月15日**
 生年月日 **1949年11月15日** 年齢 **63歳** 検査報告日 **2013年9月25日** 前回検査日 **2011年10月15日**

がんリスク評価 「CanTect結果報告書 活用の手引き」 p.07参照



遺伝子発現解析 「CanTect結果報告書 活用の手引き」 p.13参照

○検出頻度が高い遺伝子群



○検出頻度が非常に低い遺伝子群

遺伝子名	今回	前回	前々回
37 AFP	-	-	-
38 CEA	-	検出	-
39 CGA	-	-	-
40 EGFR	-	-	-
41 MAGE A1	-	-	-
42 MAGE A3/A6	-	-	-
43 Muc-7	-	-	-
44 ProGRP	-	-	-
45 PSA	-	-	-
46 SCC	-	-	-
47 WT-1	-	-	検出

Free DNA濃度 「CanTect結果報告書 活用の手引き」 p.15参照

「CanTect結果報告書 活用の手引き」 p.15参照

基準値	今回	前回	前々回
25.0 ng/ml	23.5 ng/ml	56.2 ng/ml	151.0 ng/ml

突然変異解析 「CanTect結果報告書 活用の手引き」 p.17参照

「CanTect結果報告書 活用の手引き」 p.17参照 *突然変異が検出された場合、別紙詳細参照

遺伝子名	エキソン	今回	前回	前々回
48 p53	5	-	-	-
	6	-	-	-
	7	突然変異を検出	-	-
	8	-	-	-
49 EGFR	18	-	-	-
	19	-	-	-
	20	-	-	-
	21	-	-	-
※FreeDNAが150ng/ml未満の場合、検査対象外				
48 p53	4	※	※	-
50 K-ras	1	※	※	-
	2	※	※	-
51 H-ras	1	※	※	-
	2	※	※	-
52 N-ras	1	※	※	突然変異を検出
	2	※	※	-
53 BRAF	11	※	※	-
	15	※	※	-
54 APC	5	※	※	-
	15	※	※	-
	16	※	※	-

メチル化解析 「CanTect結果報告書 活用の手引き」 p.19参照

「CanTect結果報告書 活用の手引き」 p.19参照

遺伝子名	今回	前回	前々回
55 APC	-	-	-
56 ATM	-	-	-
57 BRCA1	-	-	-
58 DCC	-	-	-
59 E-Cadherin	-	-	-
60 hMLH1	-	-	-
61 p14	-	-	-
62 p15	メチル化を検出	-	メチル化を検出
63 p16	-	-	-
64 RAR-β2	-	-	-
65 RASSF1A	-	-	-
66 RB1	-	-	-
67 TIMP3	-	-	-
68 VHL	-	-	-

血液学的検査 [参考値]

「CanTect結果報告書 活用の手引き」 p.21参照

検査項目	基準値	今回	前回	前々回
白血球	3.3-9.0	3.9 ×10 ⁹ /μl	4.7 ×10 ⁹ /μl	4.0 ×10 ⁹ /μl
赤血球	M 4.30-5.70 F 3.80-5.00	3.69 ×10 ⁹ /μl	3.70 ×10 ⁹ /μl	3.78 ×10 ⁹ /μl
ヘモグロビン量	M 13.5-17.5 F 11.5-15.0	12.0 g/dl	11.8 g/dl	12.2 g/dl
ヘマトクリット値	M 39.7-52.4 F 34.8-45.0	34.2 %	35.0 %	35.8 %
MCV	85.0-102.0	92.7 μm ³	94.6 μm ³	94.8 μm ³
MCH	28.0-34.0	32.4 pg	32.0 pg	32.4 pg
MCHC	30.2-35.1	35.0 g/dl	33.8 g/dl	34.1 g/dl
血小板	140-340	198 ×10 ⁹ /μl	185.0 ×10 ⁹ /μl	216.0 ×10 ⁹ /μl
CRP	0.30以下	0.0 mg/dl	0.0 mg/dl	0.1 mg/dl
リンパ球%		41.1 %	19.1 %	34.9 %
単球%		6.6 %	5.9 %	5.4 %
顆粒球%		52.3 %	75.0 %	59.7 %
リンパ球数		1.6 ×10 ⁹ /μl	0.9 ×10 ⁹ /μl	1.4 ×10 ⁹ /μl
単球数		0.3 ×10 ⁹ /μl	0.3 ×10 ⁹ /μl	0.2 ×10 ⁹ /μl
顆粒球数		2.0 ×10 ⁹ /μl	3.5 ×10 ⁹ /μl	2.4 ×10 ⁹ /μl

検査結果報告書・総括

2013年9月25日

東京都千代田区麹町2-6-7
麹町R・Kビル2F

株式会社ジーンサイエンス
(衛生検査所登録：22千保生環き第60号)

指導監督医 浜口玲央

2013年9月19日に受付致しました検査について、御報告申し上げます。

氏名	:	様				
生年月日	:	1949年11月15日	(63歳)	性別	:	男性
検査ID	:	GS003		検査コース	:	総合検査コース

Free DNA濃度は 23.5 ng/ml でした。
したがって、今回の検査では基準値の25.0ng/mlを下回っております。この検査は、Free DNA濃度が基準値を上回るとがんリスクが上昇することが分かっておりますので、そのことを調べています。逆に、基準値を下回ったからといってがんリスクが低いわけではありません(活用の手引きP15-16参照)。炎症などにより、体内の細胞死が活発には起こっていないということです。

がんリスク評価は 42.3 ポイントで B ランク でした。
今回の検査結果からは、相対的ながんリスクは比較的低いと考えられます。日本人のがん年間罹患率を1とした場合、Bランクの罹患率は0.6倍と平均よりやや低くなります(活用の手引きP11参照)。しかしながら、Bであるからといってがんでないと言い切れるものではありません。がんリスクをAランクに下げられるよう生活習慣に気を配り改善を図りながら、年1回程度CanTectの受診をお勧めいたします(「ライフスタイル改善によるがん予防」参照)。

突然変異につきましては今回、p53遺伝子に突然変異が検出されました。
健常者でも突然変異を検出することがありますので、突然変異が検出されたことが、直ちにがんであることにはなりません。しかしながら、がん抑制遺伝子の突然変異は、がん細胞の成長を促しかねないので、注意する必要があります(活用の手引きP17-18参照)。生活習慣を改善することで、“突然変異をもつ細胞を除去する能力”を高め、がんになりにくい体をつくるのが肝要です。

メチル化解析につきましては今回、p15遺伝子にメチル化が検出されました。
この検査は、簡単にいいますとがんを抑制する遺伝子の機能が、スイッチOFFになっているかどうかを調べています(活用の手引きP19-20参照)。健常者であってもメチル化遺伝子が検出されることがありますが、メチル化は自己免疫力の活性化で防げますので、積極的に生活習慣の見直しを行いましょう。

以上